

1 『尿沈渣の精度管理』～その2～

2
3 ○安藤 正, 菅野良則, 多田隆宏, 内海 寛, 茂木雅史,
4 中野端秋 (東邦大学医療センター佐倉病院 MCM 検査
5 室) 渡邊 仁 (同臨床検査部)

6
7 【問題作成】問題の作成に際し、大分類を血球系、
8 上皮系細胞、円柱、異型細胞、髄液とした。血球系
9 は変形赤血球と均一赤血球の見分け方を、上皮系細
10 胞は、尿管上皮細胞を中心に作成している。基本
11 型、特殊型の見方、鑑別ポイントを教える事で、難しい
12 とされるこの細胞の克服を目的としている。円柱は
13 2種類以上の成分が封入された混合円柱を中心に作
14 成している。分類基準は尿沈渣検査法 2000 に明記さ
15 れているが、スタッフ間で差が見られたので、分類基準
16 の統一化を目的としている。髄液は髄液検査法 2002
17 に準じた細胞分類の統一化を目的としている。一般
18 検査の中で特に緊急性の高いこの検査は、夜間に提
19 出される事が少なくない。慣れない技師でも正確に
20 細胞分類が出来る様、細胞の見方、考え方を統一し
21 なければならない。異型細胞は尿沈渣中に見る事は
22 稀であるが、夜間提出された検体の中から発見、報
23 告出来れば、臨床的に意義は高いので、正常細胞と
24 の違いを中心に作成している。

25 【現状】当直帯に尿検体が提出される事は決して少
26 なくない。定性は分析装置で測定するが、尿沈渣は
27 すべて目視にて実施している。当直前教育は行っ
28 ているが、1ヵ月程度の教育期間を経て当直業務に入
29 っている。時々検体の確認を依頼される事はあるが、
30 報告は当直者任せになっている。尿沈渣の報告形式
31 は尿沈渣検査法 2000 にも記載されている通り、
32 1-4/HPF、5-9/HPF、10-19/HPF と言わばアウトであり、
33 加えて尿中に出現する成分は決まっているため、こ
34 れらを組み合わせる事により報告が出来てしまう。
35 尿沈渣、髄液の鏡検に関して細胞分類が正しく行わ
36 れたか、計数が正しく行われたのかを確認する事は
37 無く、担当技師の責任において実施されている。
38 連絡先 043-463-0361